

「地場産業を再評価する」

山梨県立大学長

伊藤 洋

山梨県の研磨工業の起
源がいつ、どこにあり
かはない。また古くは
定峰産といわれた。水
晶の産地として知られ
る。明治初期に、金峰
町の時代に、加賀の
町で、これに盛んに始
まり、甲斐國ゆかりの
たのしみ、石師と尊
人、夢窓疎石、数々の
たのしみ、石師と尊
たのしみ、石師と尊
が、増すにつれて、数
府の地産となつて、甲
現地の生産技術の起
つた、昔、学んで、え
られた、の、覚、校、
この研磨技術は、明治
に入つて、国民皆生
印鑑の需要が発生す
と、篆刻技術とあ
て、大いに発展し、
一大産地として、
成長した。しかし、
脆性、欠け、質、
す、脆性、欠け、質、
の、脆性、欠け、質、
つ、で、判、争、共、
衰、微、し、戦、争、
し、か、し、第、二、次、
戦、期、に、終、り、
長、期、に、入、り、
は、宝、飾、業、と、
口、水、晶、振、動、心、
す、る、な、ど、硬、度、
イ、ト、な、ど、硬、度、
イ、ト、な、ど、硬、度、

無機材料の加工技術へ
転化された、機械の
た、核、的、指、導、機、
核、的、指、導、機、
山梨大学の工学部
生、し、た、山、梨、県、
導、所、を、前、身、と、
が、は、戦、後、の、研、
興、は、戦、後、の、研、
す、る、一、例、で、あ、
の、一、例、で、あ、
る。上述のように、
高硬度、脆性、欠け
の、質、を、ど、ろ、ん、
し、れ、ど、ろ、ん、
物、質、を、ど、ろ、ん、
こ、れ、を、ど、ろ、ん、
し、こ、れ、を、ど、ろ、ん、
1、ミ、ロ、ン、
厚、さ、ト、ク、ル、
と、も、今、ま、で、
て、変、質、断、裂、
に、特、な、質、を、
奇、妙、な、性、質、が、
い、う、特、な、性、質、
素、材、と、脆、性、
一、人、が、脆、性、
つ、授、け、た、先、生、
教、授、の、山、梨、大、
上、の、指、導、力、を、
導、の、創、立、を、
だ、の、指、導、力、を、
だ、の、指、導、力、を、

谷口先生は、超音波や
 放射加工など精密加工技
 術の研究で進歩を予測
 して、西暦2000年に
 は人類はナノメートル
 (10億分の1メートル)
 までの微細加工を手に入
 れるであろうと予言し
 て、これを「ナノテク」
 ロジックと名づけた。1
 974年、ロンドンで開
 かれた国際会議の席上だ
 ったという。
 このナノテクノロジーロジ
 ックといふ技術用語は、そ
 の後にアメリカの政時代に
 リンゴ副大統領によりな
 った。アメリカの大統領
 ティン・ブッシュが指す
 技術に組み入れられたこ
 とで日本に逆輸入された
 現在のわが国でも戦術
 の一つとしてこれが採
 択されたという。
 さくの現と技術で、
 ノベリック・マイクロ加工
 した梨の歴史、因縁は実
 山梨の歴史、因縁は実
 に深い。だが、残念なが
 ら現状を見れば、寒心に
 えない。宝飾産業の不振
 後、宝飾産業の不振と共
 研、技術も衰微し、いま
 や技術の継承者確保す
 危ぶまれる。これは、
 地域オリエントの研
 術に、オリエントの研
 業が、インディヤの半
 など、インディヤの半島
 国際商品で、国籍不明の
 かつ、けで、は、ない、だ
 っ。

ところ、昨秋の
 同時期に、
 子工業中心
 企業は、軒
 込まれ、空
 に舞われ、
 の見舞われ
 のグロバル
 市場に、
 品を供給し
 は、不況に
 界は、なけ
 処さなけれ
 は、それな
 は、その影
 グロバル自
 的にならな
 的にならな
 ら、われに
 が、地理的
 り、強みよ
 る、強みよ
 見、強みよ
 技術は、後
 い、あると
 である。こ
 る。幸い、こ
 もそのこと
 る、人た
 手、ない
 つ、ない
 人、ない
 いる、ない
 い、る、
 法、る、
 ち、上、
 や、その
 一、例、
 地域アイ
 を持つ、
 の、口、
 と、口、
 グ、口、
 大、口、
 り、口、
 再、口、
 っ。